埼玉県マスコット「コバトン」

Ｖｏｌ．７６

花とみどり

特集　花と緑の振興センターの自慢

埼玉県の木　けやき

ニレ科の落葉樹で春に新しい葉とともに、うすい黄緑色の小さな花が開きます。県内に古くから自生し、各地に県の天然記念物に指定された樹木があります。昭和４１年９月５日に「県の木」に指定されました。

左の写真の一番左側が当センター東園の「ムサシノケヤキ」で、街路樹でも目にする機会が多く、スリムな樹形が特徴です。

埼玉県の花　さくらそう

サクラソウ科に属する多年草で、川のほとりや野原に自生し、春先にハート形の花びらの花を咲かせます。県内では、かつては荒川沿岸に広く自生していました。田島ケ原（さいたま市）の自生地は、国の特別天然記念物になっています。昭和４６年１１月５日に「県の花」に指定されました。当センターではサクラソウの品種保存に取り組んでいます。

《 巻頭言 》

埼玉県花と緑の振興センターでは、約２ｈａの花植木展示園に約 2,000 品種、4,600 本の多彩な植物を収集・展示してきました。植木生産者の方には各種技術や新規樹種の情報を、当園を訪れた県民の皆様には憩いと学習の場として楽しめる空間を提供することに努めてきました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の流行により、業務を大幅に制限せざるを得ない状況に陥り、来園の皆様にも多大なご不便をおかけしてまいりました。同感染症の完全な収束はまだ見通せない状況ではありますが、少しずつ元の状態に戻していく時期を迎えているのではないかと考えています。

そこで、今号で「花と緑の振興センターの自慢」話を特集いたします。色々な取組を行って魅力ある施設を作り、情報を発信してまいりますので、これまで以上に当園にお運びいただき、お楽しみください。

彩の国 埼玉県　埼玉県花と緑の振興センター

《 特集　自慢その１　後継樹の育成への取組み 》

当センター展示園内には、サクラやウメ、コナラ他古くからある大径木が数多く展示されています。これらの樹木の中には、老木化や害虫の寄生により落枝や倒木など安全性に問題があるものが見られることから、現在、対象樹木の更新に積極的に取り組んでいます。今年度は、サクラやウメ、コナラの更新作業を進めました。６月には、多摩森林科学園の協力で、安行ゆかりのサクラ「大明」の緑枝挿しを行ったほか、１月には、花山下ほ場を耕うん、改植等整備して、ウメ苗木６品種を梅園に移植したり、１１月にはコナラのドングリを採取して播種するなど後継樹用の苗木育成に取り組んでいます。来園者の皆様に安全で質の高い展示ができるよう今後も積極的に展示用樹木の更新に取組んでまいります。

育苗中のｻｸﾗ「大明」（左）とｺﾅﾗのドングリ（右）

花山下ほ場から梅園に移植したウメ苗木

《 特集　自慢その２　「サクラソウ植え付け講座」を開催 》

当センターではサクラソウ品種保存の取組の一環として、毎年４月にサクラソウ苗販売会を開催したり、庁舎内や埼玉高速鉄道戸塚安行駅構内で「サクラソウ花壇」の展示を行い、普及啓発に取り組んでいます。

これに加えて、令和５年１月にサクラソウ植え付け講座を開催しました。サクラソウの歴史、育て方などの説明の後に、植え付け作業をし、各自植え付けた鉢は持ち帰って、サクラソウの生長・開花、休眠、翌年の芽分けを楽しんでもらう内容としました。講師はサクラソウ愛好家でもある当センター所長が務めました。また、講座当日は、当センターのサクラソウボランティアの皆様にもサポートしていただきました。冬の植え付け時期の講座開催は初めての試みでしたが、受講したみなさまには大変好評でした。

講座の様子

《 緑のコラム　特徴的な園内植物の紹介 》

この樹はオーストラリア原産のマメ科アカシア属の常緑樹です。

日本では、ハナアカシアともいいますが、ミモザといわれることもあります。（本来のミモザはオジギソウ属の植物です。）

１月から３月の花の少ない時期に山吹色に近い個性の強い花を咲かせ、見る人の目を楽しませてくれます。生長が早く育てやすいですが、形が崩れやすいので、庭に植えるにあたっては、剪定が欠かせません。

《 特集　自慢その３　ウメの接ぎ木で品種保存 》

当センターは、１９５３年（今から７０年前）に設置された埼玉県植物見本園を前身としていますが、当時から植栽されてきた樹木がかなり高齢化して樹勢が衰え、枯死などにより古い品種が失われる、もしくはその可能性が増している状況にあります。

また、地域の植木生産現場では、経営者の高齢化や後継者の不在による廃業も生じており、樹種によっては埼玉県由来の品種が消滅している事象が見られます。

そこで、当所ではこのような貴重な樹種を守り、後代に引き継いでいこうとの考えから、令和元年度に展示園整備基本方針を策定し、これに基づき令和４年度にウメ、ツバキ・サザンカ類、モミジ・カエデ類、ツツジ類、サクラ、サクラソウの６つの樹種・草種を対象として包括的に品種保存の考え方をまとめ、さらに個別の樹種ごとに対策を定めて系統的な取組みを開始しています。

ウメ接ぎ木苗の育成状況

中でもウメについては緊急性が高いと判断し、当所梅園に植栽されそこに１本のみ存在している５２品種についておおむね６本ずつ接ぎ木を実施し安定的に品種を保存していくこととしました。

この他樹種の置かれた状況に対応した方策を講じることを通じて本県花植木生産体質の強化に貢献していきたいと考えています。

《 特集　自慢その４　特許登録資材の実証展示 》

令和２年１月７日に特許登録がなされた「植木植栽容器」の有用性の確認と今後の利用拡大を図るべく、当所と植木生産者において７つの樹種において特徴、利用場面等の検討を進めています。

本年度は、実際に植木生産者にも使ってもらい、改良すべき点などについてプロの視点からの評価を得ることとしました。

これまで、植物の生育初期や鉢植えでは生長が良好であることが確認されていましたが、樹木での利用の場合での評価はありませんでした。

今後、これが緑化の増進、植木の利用拡大に寄与していけるのかなど情報や意見を収集し、役立つものとしていけるようにしていくこととしています。

植木植栽容器による実証展示

《 緑のコラム　団体紹介・輸出盆栽研究会 》

平成１３年４月に設立され、川口市、さいたま市、深谷市等で輸出を手がける盆栽栽培農家や、盆栽関係者等で構成されており、現在会員は３０名です。植物検疫に係るリスクの軽減をはじめとする植木・盆栽類の輸出振興を目指して、研究会を組織しました（事務局：花と緑の振興センター）。研究会では、病害虫の効率的な防除を図ることによる輸出盆栽の品質向上と相手国の植物検疫条件等に関して、技術対策や行政や会員との情報交換を積極的に取り組んでいます。

盆栽検査補助員による栽培地検査

《 特集　自慢その５　梅園をリフレッシュ 》

今年も梅園のウメが咲きそろいました。

昨年、大掛かりな剪定を行い、枝を整理したため花が少なめとなりましたが、今年は回復し短枝が充実してきました。

樹木が高齢化し、樹勢が衰えた樹種のとなりには、後継樹が植えられています。また、前述の接ぎ木等で品種の保存も進めています。

園内の樹木も更新ばかりではありません。現存する樹種も、剪定を行うことによりリフレッシュ。魅力的な新葉を展開してくれることでしょう。来年も期待してください。

梅園の風景

《 トピックス　緑化講座（花育教室） 》

令和４年１２月１７日（土）に埼玉高速鉄道浦和美園駅構内の会議室で小学生から高校生の年代を対象とした、松竹梅の寄せ植え体験教室を花植木類利用拡大推進ネットワークとの共催と埼玉高速鉄道株式会社(什器、機材の貸与)及び一般社団法人日本盆栽協会川口支部(盆栽展示)の協力により開催しました。

県の花植木や盆栽生産の状況などについての説明の後、寄せ植え作製、うめの花をきれいに咲かせるための秘訣の解説を行い、終わりに自分の作品とともに記念撮影を行うといったボリューム満点の内容でした。

寄せ植えは、うめやまつ、ささの根欠きに始まり限られた大きさの鉢への思い思いの配置、最後は苔や白砂で表面を覆い鶴を配置するといった本格的なもので、迎える年への願いを込めて真剣にしかし楽しく作ることができました。

県内各地から１５人（他に保護者同伴１３人）が参加し、全員が満足をし、また植木や盆栽への親しみ、今後の利用拡大への意識の高揚を図ることができました。

花育教室の会場

自分の作品と記念撮影

《 トピックス　いろいろな木の実の企画展示 》

庁舎ロビーの一角で企画展示を開催しています。テーマは伝統文化や習俗、国家試験など毎回様々ですが、園内素材１００％を旨とし、職員が園内を回りなるべく多種の素材を採取しています。８月には造園技能検定の樹名判別試験に出題される木の枝を集めた展示を行い、県外から見学に来る受検者もいました。また、１０月には「秋の木の実」を集め空飛ぶ種などそれぞれの特徴を解説しました。一か所に集めて比較することで、屋外の植栽展示とは異なる花植木展示園の魅力を発信しています。

秋の木の実の数々

発　行　埼玉県花と緑の振興センター
発行人　所長　長嶋　聡
電　話　048-295-1806　　ファクシミリ　048-290-1012
E-mail　h951806@pref.saitama.lg.jp
ホームページ　http://www.pref.saitama.lg.jp/hana-midori/index.html

令和５年３月１５日発行